

(7) 2020年(令和2年)1月6日(月曜日)

物流Weekly

提案型のものづくりを推進

キャスターの総合メーカーであるユーエイ(雄島耕太社長、大阪府東大阪市)は近年、段差乗り越えキャスターや発電キャスターなど、他社にはない製品を次々と生み出してきた。創立50周年の2027年に

ユーエイ



西村常務

向け、今年も前進を続ける同社の常務取締役兼キャスター事業部長・西村達也氏に、今後の展望などの特注品であるこ

と。後発メーカーだったからこそ、全ての工程を自社生産で行い、顧客の要望に忠実に応えてきた結果だ。「がんばる中小企業・小規模事業者300社」や「グッドカンパニー大賞」に選ばれているのも、他社が断るような分野に果敢に挑戦する姿勢が会社のDNAとなっている

るためだと言え。近年ではカナダや韓国のキャスターメーカーと業務提携し、東南アジアを中心に海外営業も積極的に進めている。西村常務は「今後はアジアやヨーロッパでの展示会にも積極的に出展したい。特にアジアはインフラ整備が進む中、キャスターの需要はますます高まっていくのでは」と話す。

様々な物流分野で 創立40年の2017年に完成した関東工場は順調に稼働。奈良・福岡工場とともに国内の製造拠点となっている。同社のキャスター事業の中心で大きな割合を占めているのが物流分野だ。トラックへの積み込み場までの搬送に使われる各種台車など様々な場面でも利用されている。

「段差乗り越えキャスター」は、労働力不足が深刻化している物流現場で、安全でスムーズな運搬をサポートし作業負担の軽減に繋がる製品として注目を集めている。「プレミアムウレタンキャスター」は、1トンの重さの荷物を1人で運べる超始動性能を実現するため、転がり抵抗が小さい特殊ウレタン素材を採用した。重量物のスムーズな運搬を可能にしているだけでなく、耐久性も向上している。どちらの製品も潜在需要を掘り起こし、社員全員で形にした自信作だ。

今年、段差乗り越えキャスターのラインナップ強化やプレミアムウレタンキャスターの普及に取り組んでいくという同社。西村常務は「一般にはキャスター業界は成熟産業だと言われているが、我々はそう考えず、安定に胡坐(あぐら)をかかずに提案型のものづくりを行っていく。技術を磨き、世の中を変えていくような製品を生み出せるキャスターメーカーを今後も目指す」と話す。

(木村麻理奈)